

特集
へえ〜っ、そうなんだ!?
〜昔の人はすごい!!〜
第51回



! 手荒れは牛乳が防いでくれる

家事や仕事で手が荒れてしまう事は、悲しいけれど仕方のない事です。
 おばあちゃんの知恵袋を借りて予防に努めましょう。



家事や仕事で手が荒れたら、牛乳を洗面器に入れ、お湯で10倍くらいに薄めます。この中に手を入れ、良くマッサージをしてタオルでふき取ると・・・ビックリ! 手が滑らかになり、手荒れを防いでくれます。足先や肘のカサカサにも効果があります。



*昔から、「おばあちゃんの知恵」といわれているものは、長年の経験に基づいた先人たちの知恵の凝縮です。わたしたちも入居者の皆様から、たくさんの「へえ〜っ、そうなんだ!? 知らなかった〜! 昔の人はすごいなあ〜」と、実感できるアイデアを日々、教わっています。

(参考文献:宝島社 おばあちゃんの知恵袋 決定版 生活のコツ700 編集/佐藤倫子)

編集後記

日ごとに温かくなり春らしい陽気になってきました。桜の花も春の陽気で一気に満開をむかえました。コロナ禍の為、例年の様に大勢でお花見に行くのは難しいですが、晴れた日に近くを歩いてみると、案外今まで気づかなかった穴場があるかもしれませんね。気分転換や適度な運動を行い、元気に過ごしましょう。

グループホームこんぴら・サンライズこんぴら広報誌「こんぴらだより」第57号
 発行元：グループホーム こんぴら・サンライズ こんぴら 編集者：こんぴらだより発行部
 住所:〒766-0002 仲多度郡琴平町167 TEL:0877-73-0811 FAX:0877-73-0812
 ホームページ <http://www.eisei-hp.or.jp/> (永生病院のホームページよりお進みください)
 eメールでのお問い合わせは keiryokai@eisei-hp.or.jp
 発行年月日:令和3年4月15日

支援医療機関 介護保険事業所



永生病院
 〒769-0311
 仲多度郡まんのう町買田221-3
 Tel 0877-73-3300



森内科 (グループホームこんぴら)
 〒766-0002 仲多度郡琴平町167
 Tel 0877-73-4188

グループホームこんぴら
 Tel 0877-73-0811



サンライズこんぴら
 (小規模多機能型居宅介護)
 〒766-0004
 仲多度郡琴平町榎井字池田451番地1
 Tel 0877-58-8600

- いこいの郷 (居宅介護支援事業所) Tel 0877-73-3655
- いこいの家 (通所介護) Tel 0877-73-3718
- げんきの郷 (通所介護) 〒769-0311 仲多度郡まんのう町買田102-1 Tel 0877-58-8811



vol.57

2021

グループホーム こんぴら

行事報告

サンライズ こんぴら

行事報告

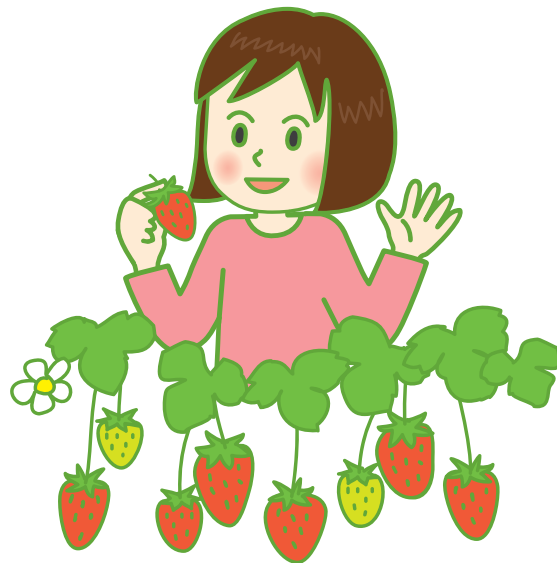
名所めぐり

利口げな話

特集:「へえ〜っ、そうなんだ!?
 〜昔の人はすごい!!〜」 第51回

編集後記

関連機関



KEIRYOKAI
 produced by
 医療法人圭良会

グループホームこんぴら Group Home Konpira

●基本理念

家庭的温かさ・個人の尊厳を大切に、豊かな生きがいのある共同生活が送られるよう、家族の一員としての介護支援を行います

●基本方針

1. 家庭的で安全な療養環境を提供します
2. 24時間家族の一員がそばにいる安心感がもてるよう介護支援を行います
3. 自分らしさを尊重した生活が送られるよう入居者の健康増進を図り個性のある介護支援を行います

～グループホームの1日～



食事の前には口や頬の運動、嚥下をスムーズにし誤嚥防止に繋がる口腔体操を行います。



午後からは様々なレクリエーションをしたり、時にはドライブなど外へ出掛けることもあります。



食事は毎食、入居者様揃って食堂で食べています。素敵な笑顔が見られています。



起床後・10時・15時に体温と血圧測定を行い、体調の変化にいち早く気付けるようにしています。



午前と午後の2回、リハビリ体操を行います。音楽に合わせてリズムカルに手足を動かし、楽しみながら体操をしています。また、永生病院からリハビリテーション科のスタッフが週2回、リハビリの指導に来てくれています。

取り組み 脳活性化リハビリ

グループホームでは週に2回脳活性化リハビリを行っています。脳活性化リハビリとは音楽療法や回想法、学習療法などを入居者様と職員がコミュニケーションを取りながら行う事により認知症の症状維持、改善を目指す脳のリハビリテーションの一種です。塗り絵やパズル、計算、ことわざ等、入居者様の得意な事をして頂いています。



サンライズこんぴら Sunrise Konpira

●基本理念

住み慣れた地域の中で、その人らしく暮らし続けられるよう、在宅生活の支援を行います

●基本方針

1. 通い泊まり・訪問のサービスを、随時組み合わせた介護支援を行います
2. 地域の中での関係を大切に継続するとともに、個性を尊重した支援を行います
3. 365日24時間切れ目のない安心した在宅生活が送れるような支援を目指します



～桜のお茶会を開催（手作りコースターを作って）～

レクリエーションで折り紙を使ってコースター作りを行いました。桜をイメージした個性的なコースターをたくさん作る事ができました。出来上がった自分の作品をみて利用者様より、「綺麗にできた。桜の花が梅や桔梗にも見えるなあ、お花見に来たみたいや。」と喜ばれていました。

そのコースターを使ってお茶会を開催し桜茶を皆で飲みました。「桜茶は久しぶりに飲んだ。」「娘の結納の時に飲んだなあ〜。」と思い出話に花を咲かせていました。



名所めぐり ～琴平町史跡紹介 鞘橋～

鞘橋（さやばし）は、琴平町を流れる金倉川に架かる橋です。銅ぶき、両妻唐破風（りょうづまからはふう）、上屋根千鳥破風の屋根付橋で金刀比羅宮蔵の元禄屏風金毘羅祭礼図には、現在の一の橋が架かっている場所に鞘橋が描かれています。この橋では昔、市が立ち飲食物などの出店があったといわれています。また、十返舎一九の金毘羅道中膝栗毛の中には、「上の覆ふ屋形の鞘におさまれる御代の刀のようなそりはし」と書かれており、当時から珍しい形状の橋であったと考えられています。現在では、通常は渡ることができず金刀比羅宮大祭の御神輿の渡御、湖川神事、お田植え祭などの神事の際にのみ用いられています。



利口げな話

第30回

認知症や介護について、分かりやすく説明したいと思います。



介護を拒否する場合

（原因と対応策）

介護拒否の多くは、不安からくるものです。本人が安心できるように工夫してあげると、多くの場合は症状も収まります。介助をする際は、「何のために何を行うか」をわかりやすい表現で説明しましょう。本人が納得できれば症状も解消されるはずです。

例えば、食事を嫌がるときは、以前使用していた食器や箸を使うと安心することがあります。少しの環境の変化でも不安になることがあるので気をつけましょう。

〈×NGな対応例〉

- ・介護される側の気持ちを考えない
- ・介護する側の理屈で介護を押し付ける

お風呂に入るのを拒否する場合

（原因と対応策）

認知症によって記憶障害の症状が現れると、お風呂に入ったかどうかともわからなくなります。また、思考力や判断力が低下するため、自分の身体が汚くても、客観的にそのことを理解できなくなります。お風呂に入る必要性を感じなくなり、拒否するようになってしまうのです。

対策としては、お風呂に入ることを強調せず、「薬を塗る」「足の爪を切りたい」などの理由をつけて、浴室や脱衣所まで誘導します。その後、「浴槽にお湯を入れたのでどうですか」と誘ってみましょう。



〈×NGな対応例〉

- ・「汚いから入ってください」など、気分を害するような誘い方をする
- ・無理やり服を脱がせたり、お風呂に入らせたりする

（参考HP：みんなの介護<https://www.minnanokaigo.com/guide/dementia/support/>）